

研究実施のお知らせ

研究課題名：当院の抗悪性腫瘍薬 Dose Rounding による薬剤廃棄削減効果と
医療経済的効果の検討

研究期間：仙台市立病院倫理審査委員会承認後～令和 8 年 10 月

仙台市立病院では、上記課題名の研究を行います。「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」（令和 3 年 6 月 30 日施行）に基づき、匿名化された診療録等の研究利用について、以下に公開いたします。

【研究の対象となる方】

2025 年 9 月から 2026 年 2 月までの期間に、当院外来化学療法室において、“抗体製剤” ベバシズマブ、パニツムマブ、トラスツズマブ、ラムシルマブを投与された患者さん

【研究の目的と意義】

抗悪性腫瘍剤は体重や体表面積に基づき用量が決定されることが多く、バイアル規格との不一致により薬剤廃棄が発生し、医療経済的負担の一因となっています。廃棄削減手法の一つで、投与量を±10%以内で調整する Dose Rounding (以下、「DR」という。)は先行研究において DVO と比較して廃棄削減効果が高いと報告されています。本研究では仙台市立病院における抗体製剤を対象に DR の廃棄削減効果を評価し、有用性を確認することを目的としています。

*DVO : Drug Vial Optimization

→注射薬などのバイアルに残っている薬剤を廃棄せず、複数患者で分け合う取り組み

【研究の方法】

当院で使用頻度の高い“抗体製剤”ベバシズマブ、パニツムマブ、トラスツズマブ、ラムシルマブ投与患者を対象に電子カルテを用いて後方視的に投与量を抽出します。過去に処方された各投与量に対し±10%以内の DR を仮想的に適用し、廃棄が最小となるバイアル規格の組み合わせを選択します。DR でシミュレーションした場合と実投与での薬剤廃棄量、使用バイアル費用を比較します。

【研究に用いる試料・情報の種類】

診療録に記録された診療情報（年齢、性別、診療科）、薬剤の種類、バイアル使用量、納入価、DR 導入後の薬剤廃棄削減量、薬剤廃棄削減額、およびバイアル購入費削減額のシミュレーション結果を、研究に使用させていただきます。使用に際しては、倫理指針等により個人情報厳重に保護し、研究結果の発表に際しても、個人が特定されない形で行います。

【研究の実施体制】

当院外来化学療法室で投与された方のみ研究の対象となります。

仙台市立病院 薬剤科 薬剤師 柊窪 英行

【お問い合わせ先】

この研究への情報提供を希望されないことをお申し出いただいた場合、その患者様の情報は利用しないようにいたします。ただし、お申し出いただいた時に、すでに研究結果が論文などで公表されていた場合などは、完全に廃棄できないことがあります。情報の利用を希望されない場合、あるいは不明な点やご心配なことがございましたら、ご遠慮なく下記連絡先までお問い合わせください。この研究への情報提供を希望されない場合でも、診療上何ら支障はなく、不利益を被ることはありません。

仙台市立病院 薬剤科

薬剤師 柝窪 英行

仙台市太白区あすと長町一丁目 1 番 1 号

電話：022-308-7111（代表）